

小中学校の多様な子供たちへの 支援

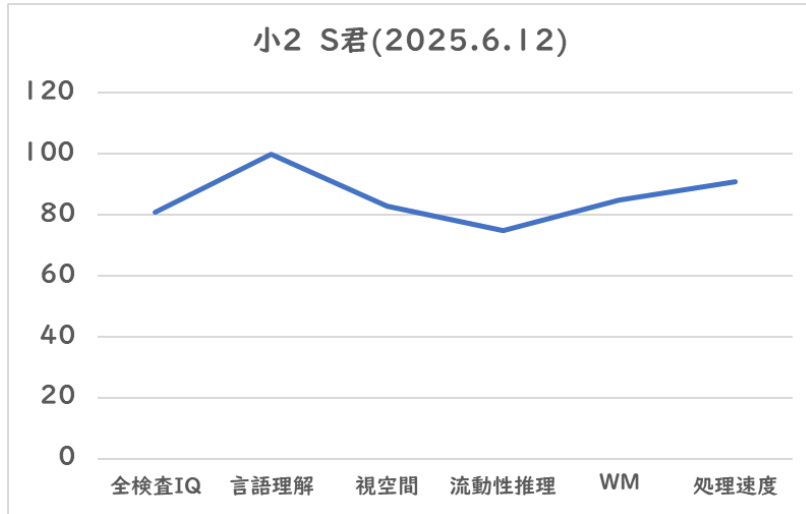
～外部資源を活用した支援～

東京学芸大学

名誉教授 小池敏英

特任教授 箱山 智美

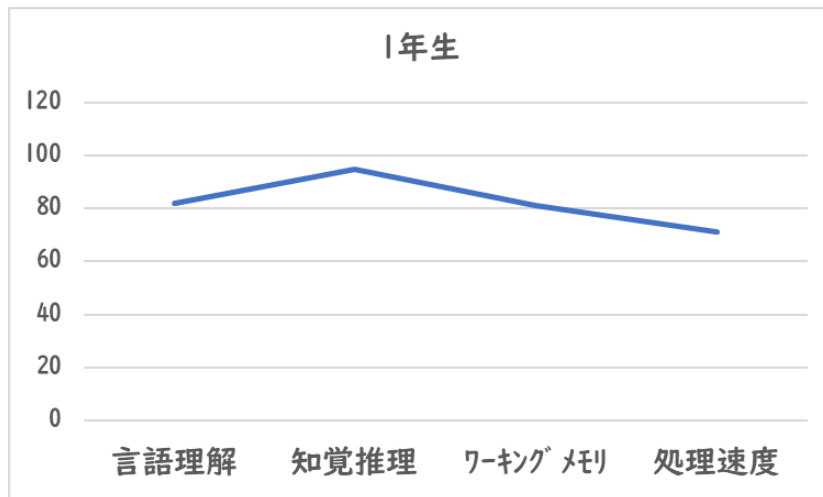
1. 保護者のインタビューから



事例1 小2 (ASD児)

偏りの強い学習困難を伴う。

強い、不登校傾向を有する



事例2 中3 (境界線児)

読み書きの学習困難を伴う。

学校適応は良好

2.学習困難の背景について考える

漢字の読みの習得には、

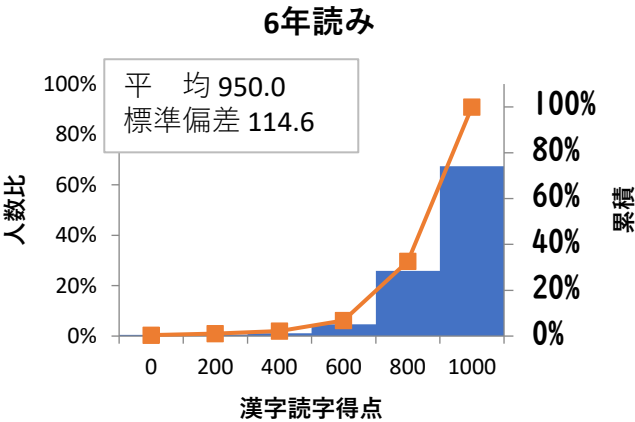
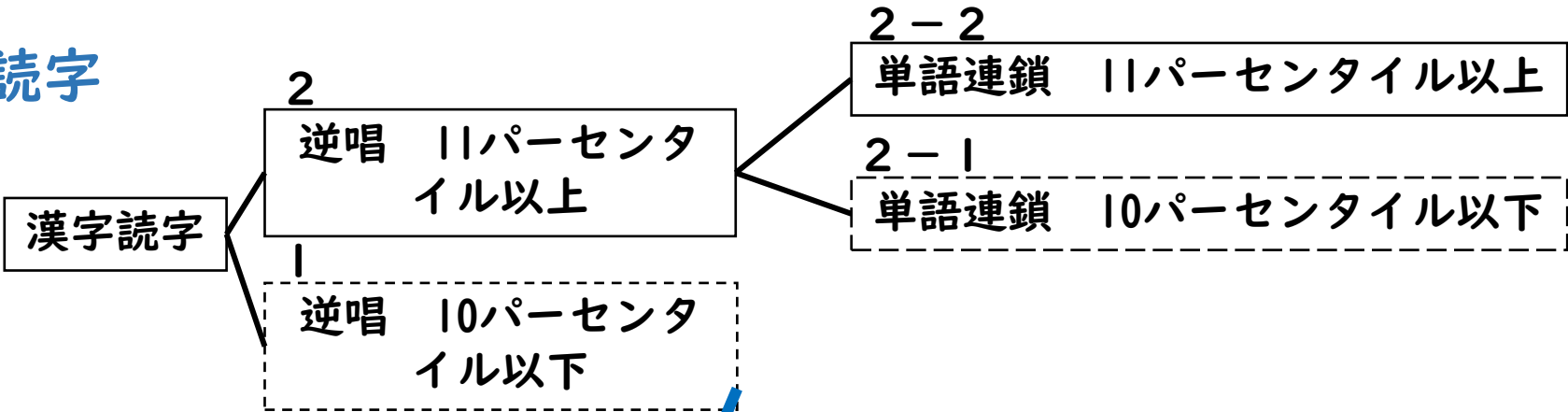
低学年:特殊音節表記の習得困難

高学年:言語性ワーキングメモリの弱さが関連する

漢字の書きの習得には、

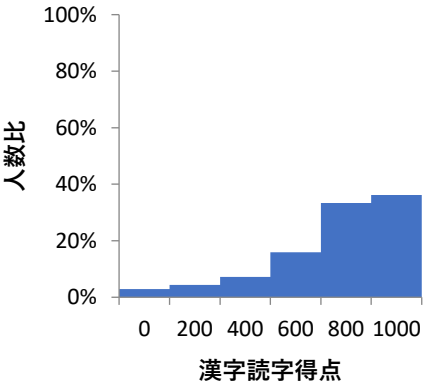
漢字の読み習得の低成績が関連する。

6年読字

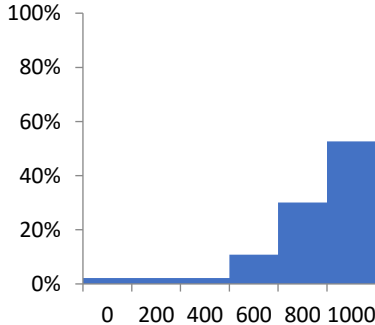


1

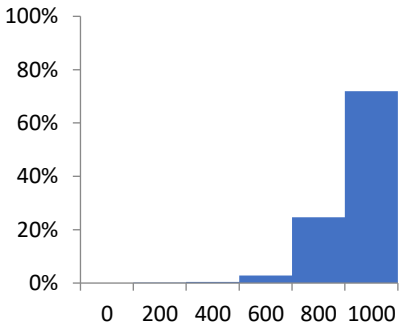
6年 932名



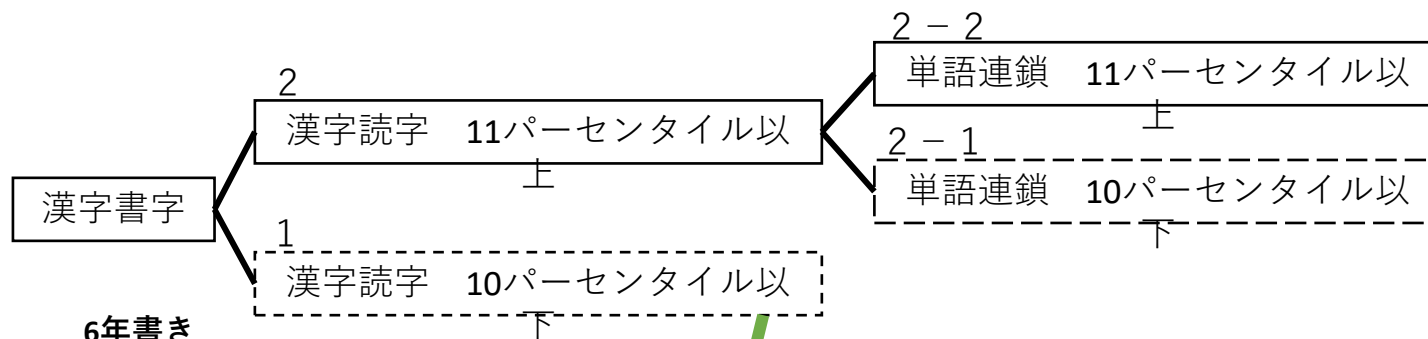
2-1



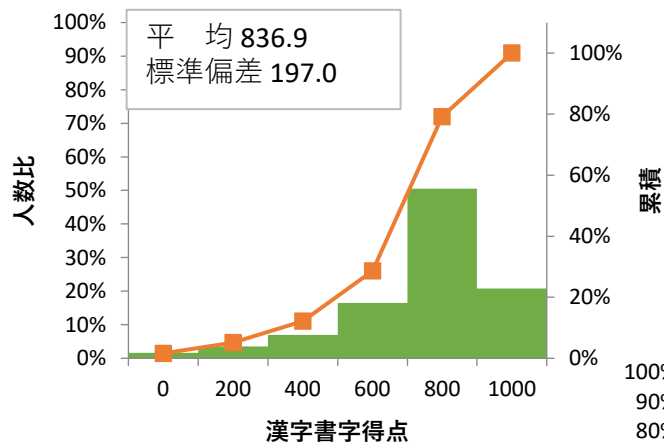
2-2



6年書字



6年書き



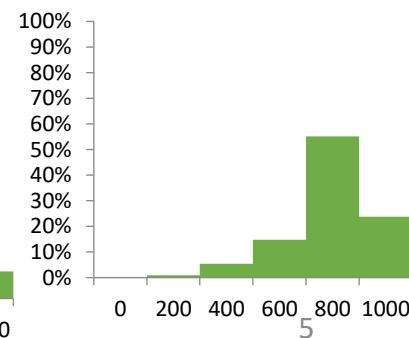
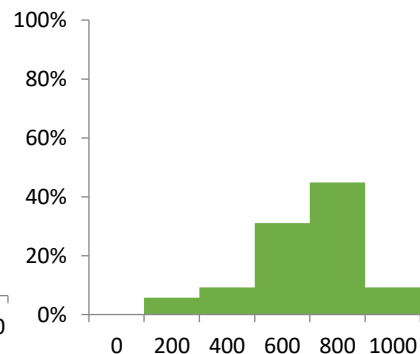
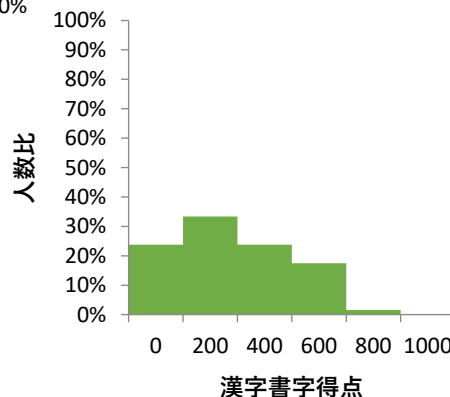
6年 932名

◆6年生では、漢字読字の低成績が、書字の低成績の背景要因になる

1

2-1

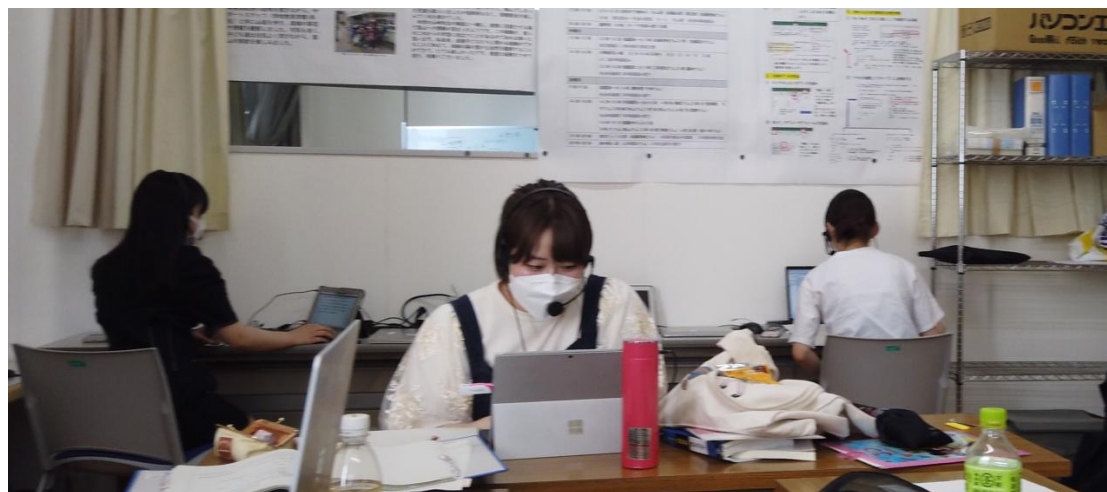
2-2



子どもの学びの弱さに配慮した学習支援が効果的である

→ 尚絅学院・子ども発達支援センターでは、リモートでの学習支援を行ってきた。

★山田町での支援の展開を通して、支援の在り方について、考えたい



3.外部資源の活用事例

山田町でのリモート学習支援の紹介

尚絅学院大・発達支援センターの資源
の活用

自主シンポジウム

「学びをつなぐ」

～多様な学びを支える山田町での実践～

令和8年9月20日（日）
東京学芸大学 子どもの学び困難支援センター
特命教授 箱山 智美

課題

1 通級指導教室の設置現状

- 市内の通級指導教室 → 「ことばの教室」 小学校 1 校
指導内容は、話すことの技能訓練が中心
- 発達障害や学習障害の通級指導教室は「なし」
学びに困難を感じている子どもの中には、サービス通級として
「特別支援学級」での通級指導を受けているケースもある

2 学びに困難を感じている子どもたちへの支援の充実

- 教室での学びに困難を感じている子どもへの支援
- 不登校（傾向を含む）児童生徒への学習指導

学びと分断されない支援の工夫が必要

3 教員の負担感の軽減

山田町の取組 1

基本的な考え方の整理

すべての子どもたちの学びを保障する「山田の学び」 ※令和7年度改訂と
多様な学びを支える「山田スタンダード」（町内統一の評価規準表）の作成

「山田の学び」とは、町内の子どもたちの学びを支える「4つのプロジェクト」

- | | |
|------------|--------------------|
| 「感性プロジェクト」 | ～学びの完成を高める～ |
| 「意欲プロジェクト」 | ～学びの構えを培う～ |
| 「知性プロジェクト」 | ～学びの力を伸ばす～ |
| 「支援プロジェクト」 | ～すべての子どもたちの学びを支える～ |

山田町の取組 1

基本的な考え方の整理 2

多様な学びを支える「山田スタンダード」（町内統一の評価規準表）

- 1 教科学習の見通しを子どもと共有する → **学びへの不安やストレスを軽減**
 - 全教科の单元ごと、学期ごと、学年ごとの観点別評価を4月に配布
 - 子どもたち、保護者（検討中）への**ガイダンス**を実施し学習のゴールを共有
- 2 学習評価の考え方を明確にする
 - 定期テストだけでの評価・評定とならないように单元ごとの達成状況を明らかにする
 - 観点別評価と通知表、指導要録の評定とのかかわりを明確化
 - 学年内での学び直しや教室外での学びの評価を可能にする

教室以外の場所における児童生徒の学習評価の考え方

山田スタンダードの活用により身につけるべき力を1学期間、1年間と長期で考え、長期休業期間等を活用した学習や遡り学習（当該学年内）の内容を評価へ生かすことができるようにした。

教職員が、子ども・保護者と「教室以外の場所で行うような単元や評価項目」を話し合い、「取り組める項目」を増やしていく。

支援員等が、「校内教育支援センター」（校内の教室以外の居場所）や「教育支援センター」での学習を観点別評価へ生かすために、評価計画を活用し、学校と連携し評価材料を集めていく。

すべての子どもたちを「**学びから分断させない**」工夫を
町教育委員会、学校、保護者、子どもたちが
共通理解しながら取り組んでいます。

山田町の取組 2

外部資源を活用した取り組みの紹介

教室での学習の「学びにくさ」や「苦手」など「困っている子ども」の学びを支える工夫として、町内全ての小中学校でオンラインによる①教育課程内、②教育課程外での読み・書き指導を実施しています。

- 1 連携大学：尚絅学院大学、東京学芸大学、盛岡大学（検討中）
- 2 指導対象：指導を希望する町内児童生徒
- 3 推進体制：オンラインでの大学生による子どもたちへの指導
週1回の担当者打ち合わせ会の実施（大学関係者、町教育委員会）
町教委指導主事による学校への定期的な訪問

山田町の取組 3

オンライン指導の実施状況

1 教育課程内（昼休みを活用）

- 職員室で通常学級の児童が複数人で取り組んでいます（小学校）
- 特別支援学級の生徒が取り組んでいます（中学校）

2 教育課程外（保護者と大学が直接日程を調整）

- 家庭で保護者同伴で取り組んでいます（小学校）

山田町の取組 4



山田町の取組 5

課題

1 オンライン指導時間の確保

昼休みを活用しているため学校行事等との調整が難しいことがある

2 指導体制の整理

教育課程内では教員の対応が必須

3 「学習の困難さ」と「障害」の「はざま」の理解がさらに必要

また、「学習の困難さ」と「不登校」とが関連するケースもある